

カキ「中谷早生」の生理落果軽減・果実肥大促進技術の開発

果樹試験場かき・もも研究所

【研究のねらい】

カキ「中谷早生」は本県で発見され、平成15年8月に品種登録された「刀根早生」の枝変わり品種です。「刀根早生」に比べて着色が早く県内では9月上旬～中旬にかけて収穫できます。しかし、若木を中心に生理落果が多く、小玉なことが問題となっているため、これらの問題を解消するために環状剥皮部位に癒合調節のために針金を結縛する処理について検討しました。

【研究の成果】

- ① 本処理の方法は、樹の主幹部または主枝基部へ環状剥皮を幅3mm程度行って剥皮部に接ぎ木テープをあてた後、φ2.5～3mmのアルミ線で結縛します(図1)。
- ② 本処理は5月中旬の開花期頃に実施し、30日程度結縛することで、翌年の樹勢にあまり影響を与えることなく生理落果の軽減及び果実肥大の促進に効果があります(図2、3)。

【成果の活用面・留意点】

針金の結縛期間が40日を超えると翌年の樹勢に影響が出る可能性があるため注意が必要です。樹勢低下がみられるときは連年処理しないでください。

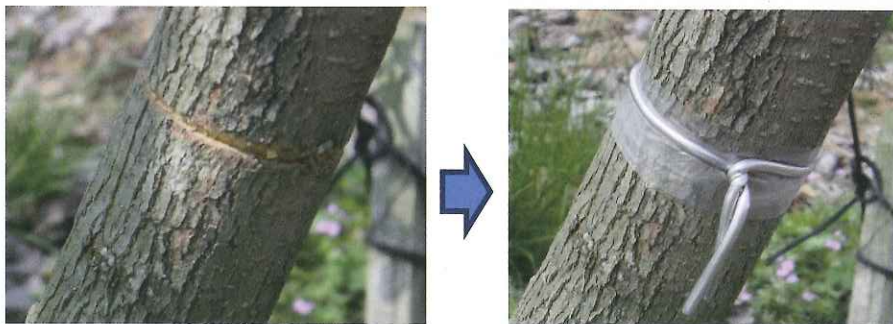


図1 処理方法：環状剥皮部位に接ぎ木テープをあてアルミ線で縛る

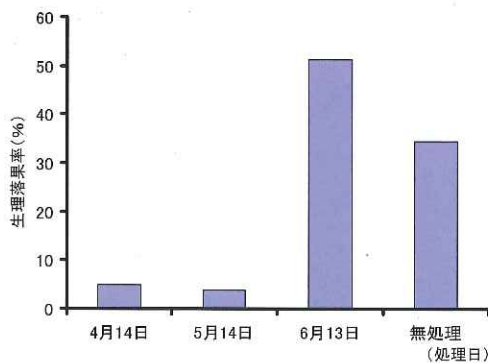


図2 処理時期と生理落果率

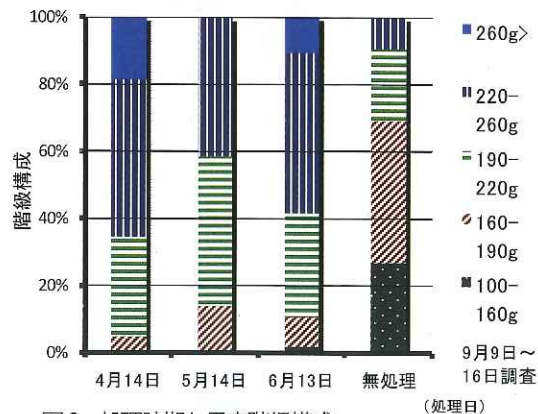


図3 処理時期と果実階級構成

注) 果頂部平核無用カテゴリー4以上で調査

(問い合わせ先 TEL : 0736-73-2274)